



関東学院大学人間共生学部10周年記念 ワークショップ

テクノロジーが変える コミュニケーション

参加無料

2025年 第1回 12月 4日 (木)
第2回 12月11日 (木)

15:30~17:00
(15:00開場)

会場

関東学院大学 関内キャンパス
6F ステップホール
横浜市中区万代町1-1-1
JR 関内駅 南口 徒歩2分

参加申込は
こちらから



<https://forms.office.com/r/3zxDySVfu1>

インターネット、SNS、そして生成AIなど、急速に進化を続けるデジタル技術やサービスは、私たちのコミュニケーションのあり方を大きく変えつつあります。パネリストによるトークと、会場のみなさんとの討議を交えた参加型のワークショップで、テクノロジーの可能性と共生について考えましょう。

第1回(12/4) テクノロジーと共生

生成AIをはじめとするデジタルテクノロジーは、私たちのコミュニケーションを豊かにするのでしょうか。AIと人との新しい関係性について考えます。

パネリスト

高橋ミレイ [合同会社CuePoint代表]

合同会社CuePoint代表。編集者、リサーチャー。エンタメ×AIに特化した最新の研究やニュースを発信するメディア「モリカトロンAIラボ」編集長。人工知能学会倫理委員。編著書『RE-END 死から問うテクノロジーと社会』。



春仲 萌絵 [グラフィック・クリエイター]

1997年生まれ。学習院大学経営学科卒。言葉を視覚化する表現を軸に、行政・教育・テレビなど幅広い分野でグラレコやイラストを手がける。著書に『ロジクリ思考』(大和書房)、『ことばのふしぎ大冒険』(講談社)。

ピーちゃん [LOVOT]



第2回(12/11) 生と死とテクノロジー

「死者」と私たちの共生は、テクノロジーによってどう変わるのでしょうか。AI故人や弔いとテクノロジーの関わりについて紹介します。

パネリスト

佐藤 啓介 [上智大学大学院教授]

聖学院大学准教授、南山大学准教授等を経て2021年より現職。博士(文学)(京都大学)。専門は宗教哲学、死生学、倫理学。著書に『死者と苦しみ』の宗教哲学—現代宗教哲学の可能性』、『いまを生きるための倫理学』(共著)等。



高木 良子 [東京科学大学] 「JST「人間と非人間の感应的ケア」プロジェクト 博士研究員」

東京科学大学・博士特別研究員(博士後期課程在籍)、コミックエッセイスト、中国語翻訳者として活動する中、実父の死去を期に研究の道へ入る。現在は文化人類学的視点から「弔いの心性とテクノロジー」の関係について研究中。



モデレータ



折田 明子 [関東学院大学人間共生学部コミュニケーション学科教授]

博士(政策・メディア)(慶應義塾大学)。専門は情報社会学。人と社会とテクノロジーの関係に関心を持つ。本学ではソーシャルメディアの情報発信や人工知能などの関連科目を担当。

主催：関東学院大学人間共生学部コミュニケーション学科

協賛：関東学院大学人間環境学会

協力：JST-RISTEX『SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(情報社会における社会的側面からのトラスト形成)』研究開発プログラム「亡き人のAI生成に関するトラスト形成と合意形成」(研究代表者：折田明子)

RISTEX
社会技術研究開発センター

問い合わせ：関東学院大学 関内キャンパス学部庶務課

kannaishomu@kanto-gakuin.ac.jp